

ワタシと絹 ※会員の皆様による絹関連の寄稿を掲載しています。ご寄稿頂ける方は事務局までご一報ください。

1980年生まれ私にとって、生糸貿易などで横浜が発展したことは歴史の話にすぎませんでしたが、数年前に北仲 BRICK (旧帝産倉庫)に通い、ようやく生糸貿易について知り、また自分の一家の歴史をも知るきっかけとなりました。私と生糸の関係は薄いものですが、信州出身の祖父の実家でも実は蚕を飼っていたようで、祖父のふるさについてお話をさせていただきます。

祖父は信州の佐久の生まれで、祖父が通った寺子屋のような小学校は龍岡城というお城の跡地に残る櫓(御台所)です。この龍岡城はフランス式の軍制や蚕種・生糸産業の向上に努めた松平乗謨が慶応3年(1867)年に建てました。砲攻撃に備えて星形要塞が設計されましたが、幕末の混乱期ゆえに要塞は未完成のまま明治の廃藩を向かえてしまいます。わずか20年足らずで城は解体され、競売につけられた後にお堀も埋められたそうです。残された櫓のお台所は、しばらく農具などの倉庫となっていました。明治8年(1875年)から小学校として使われるようになり、昭和初期に地元の住民がお堀を復元し、今でも星型のお堀のなかに小学校があり、その一部にお台所が残っています。

私の祖父の実家は龍岡城から歩いて20分のところにあり、十年前に祖母と伺った時も蔵などの建物が残っていました。私の祖母は戦時中、お産のため家の二階へ疎開をしていました。そこはお蚕様の飼育のためのお部屋で、「お蚕様(おこさま)」は「人」よりも上の存在だそうです。お蚕様の季節になると祖母たちは部屋をお蚕様へお譲りして味噌蔵の二階へ移り、お蚕様の季節が終わると再びその部屋へ戻ったそうです。

神奈川県警の外事課で勤めていました祖父は終戦後、無事に横浜へ戻り、公職

中川 ちあき (ヨコハマヘリテイジサポートクラブ会員)

追放をまねがれて、接收された旧帝産倉庫で将校などを手伝い、タイプを打ったりと事務を勤めていたそうです。大正末の建設から、築20年ほどしか経過していない帝産倉庫が貿易の拠点から米軍の拠点の一部になりました。信州の小さな養蚕農家から出てきた祖父が接收された旧帝産倉庫で通っていたことは、私にとって忘れてはならない横浜の歴史です。



龍岡城お台所

## ヨコハマヘリテイファンドへのご寄付をお願い致します！【2014年度 賛助会員の皆様】

ヨコハマヘリテイジでは、横浜をはじめとした国内の歴史的資産の保存活用に向けて、皆様のご寄付をお願いしております。各地に眠っている歴史的資産を地域の宝、日本の宝、世界の宝として、将来に渡り受け継いでいくために、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご寄付を頂いた方には、個人の皆さまには、所得税等の控除に使える免税証明書、法人の皆さまには法人税の控除に使える税額控除証明書を発行致します。また、金額に応じた記念品を贈呈致します。

いつもご支援をありがとうございます



公益財団法人 はまぎん産業文化振興財団



横浜市大倉山記念館

## ヨコハマヘリテイジ刊行物のご案内

お求めは下記連絡先の事務局までご一報ください。

- A. 都市の記憶 - 横浜の主要歴史的建造物第6版 定価：700円(税込)
- B. 都市の記憶 - 横浜の土木遺産 定価：1,200円(税込)
- C. 横濱の歴史を生かしたまちづくりの25周年 頒布価格：1,500円 (関内地区25棟の歴史的建造物のカード付き)



A

B

C

### 【1口～9口】(1,000円～9,000円) 下記を1～9セット

- ・都市の記憶 - 横浜の主要歴史的建造物第6版
- ・山手の西洋館 - 外国人居留地の歴史的景観



### 【10口】(10,000円) 下記を1セット

- ・横濱●開港の舞臺 - 関内街並復元絵圖 (45cm×45cm 長さ：10メートルの絵巻物) 絶版品 60 限定
- ・都市の記憶 - 横浜の主要歴史的建造物第6版
- ・山手の西洋館 - 外国人居留地の歴史的景観



## ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明書を発行いたします。確定申告の際に、控除となります。

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2014 夏号】平成 26 年 7 月 16 日 発行

発行：公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号  
tel：045-651-1730 mail：yh-info@yokohama-heritage.or.jp 編集協力：上村 耕平



写真：米山 淳一

## セミナーのご案内 - 鉄棧橋竣工 120 周年記念事業 ダイサンバシ大学 -

2014 年で 120 周年を迎える大さん橋。昔も今も横浜の海の玄関口として、多くの人々の物語りに立ち会ってきました。そんな歴史の舞台となってきた場所「大さん橋」で学ぶ 開港都市ヨコハマの歴史講座がスタートします。

【日時・講義内容】 ※時間はいずれも 19:00～21:00 を予定

第 1 回：2014 年 8 月 20 日 (水) 「原三溪とヨコハマ」 西 和夫 (神奈川大学名誉教授 / 公益社団法人横浜歴史資産調査会 相談役)

第 2 回：2014 年 8 月 27 日 (水) 「ヨコハマ船物語」 今野 洋一 (日本郵船横浜支店 支店長、総務グループ調査役、歴史博物館)

第 3 回：2014 年 9 月 10 日 (水) 「鉄道遺産を生かしたまちづくりと観光」 米山 淳一 (公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事)

第 4 回：2014 年 9 月 24 日 (水) 「元町の賑わい」 近澤 弘明 (株式会社近澤レース店 代表取締役社長)

第 5 回：2014 年 10 月 8 日 (水)

パネルディスカッション「ヨコハマの歴史遺産を生かしたまちづくり」  
コーディネーター：鈴木 伸治 (横浜市立大学教授 / 公益社団法人横浜歴史資産調査会 理事)  
<パネリスト>  
・西 和夫 (神奈川大学名誉教授 / 公益社団法人横浜歴史資産調査会 相談役)  
・米山 淳一 (公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事)  
・近澤 弘明 (株式会社近澤レース店 代表取締役社長)  
・山本 博士 (株式会社三陽物産 代表取締役社長)

【会場】 横浜大さん橋 横浜市中区海岸通 1-1-4	【参加費】 1 回 2,000 円 (懇親会費含む) ※5 回受講券 8,000 円	【定員】 各回 80 名 (要予約)
----------------------------------	--	-----------------------

【お申込み】 ・インターネット申込みフォームより URL：www.tvk-coms.co.jp/daisanbashi ・FAX より 045-651-1730 (公益社団法人 横浜歴史資産調査会事務局) ⇒氏名・連絡先 (メールアドレスまたは電話番号)・参加希望の回を明記。 ※お申し込み締切は FAX の場合は各回前日まで (Web は当日までお申し込み出来ます)	【お問い合わせ】 t v k コミュニケーションズ 045-662-7557 (平日 10:00～16:00)
--	---

【主催】 横浜港大さん橋国際客船ターミナル (指定管理者 相鉄企業株式会社)	【協力】 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)
---	--------------------------------------

## 【特集】横浜から国内の絹文化を繋げる「シルクロード・ネットワーク」

### シルクロードネットワークの設立に向けて

米山 淳一（公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事）

絹関連遺産では我が国初の世界文化遺産登録に「富岡製糸場と絹関連遺産群」が平成26年6月、世界遺産委員会で決まりました。長年の夢が結実したと群馬県内は大いに盛り上がっています。登録対象は、富岡製糸場（重要文化財・史跡・富岡市）を核として荒船風穴（史跡・下仁田町）、田島弥平旧宅（史跡・伊勢崎市）、高山社跡（史跡・藤岡市）から構成されていることは良く知られています。世界文化遺産に登録されたことを機会にこれらの遺産が地域振興や活性化をもたらすと期待されています。

さて、絹産業は群馬県だけに存在するのでしょうか？江戸後期から明治、大正そして昭和時代と長きにわたって受け継がれた絹産業は実は全国的におこなわれていました。今でも各地にその足跡を見ることができます。しかも、絹産業は大きな富を我が国にもたらしました。近代国家としての骨格を整えることができたのも絹産業のお蔭なのです。

そして、絹産業の要となった街は、横浜でした。関東、甲信越、東北地方で生産された生糸や関連製品は、シルクロードを経て横浜から輸出されていました。今日、横浜が発展したのは絹のお蔭なのです。

その恩恵に感謝して絹産業関連市町村や庶民活動等の力を合せて平成26年度中に当社団（ヨコハマヘリテイジ）では「シルクロード ネットワーク」を設立し絹産業関連の歴史・文化の育成、保全を介して地域活性化を目指す予

定です。ご関心のある皆様のご参加、ご支援、ご協力を心よりお待ちしております。



世界文化遺産 富岡製糸場（群馬県 富岡市）



国指定重要文化財 碓氷峠の第三アーチ橋（群馬県 安中市）



重要伝統的建造物群保存地区 海野宿の町家（長野県 東御市）



国指定重要文化財 旧高野家住宅（山梨県 甲州市）

※写真：米山 淳一

### 旧 帝 蚕 倉 庫 の魅力

吉田 鋼市（横浜国立大学名誉教授／公益社団法人横浜歴史資産調査会 副会長）

「キーケン」の名で親しまれてきた横浜生糸検査所の施設群が北仲の地にできあがったのは大正15年。大規模な庁舎（4階建て、地階付）の背後に、同形同大の4棟の倉庫（3階建て、地階付）、および倉庫事務所（3階建て）が整然と並んだ大建築群だった。もちろん震災復興のシンボリックな存在であり、一大シルクセンターとして日本の貿易、ひいては日本の経済を支えた。4つの倉庫で28万梱（1梱は9貫目）の生糸が保管できたという。

設計は横浜ゆかりの遠藤菟、施工は大林組。倉庫群の運用は、生糸検査所の竣工と同時に設立された帝国蚕糸倉庫株式会社に委ねられたから（ただしA号倉庫の一部は生糸検査所の直営）、それで倉庫群はずっと帝蚕倉庫の建物として知られてきた。

この北仲の地は、場所自体が横浜の歴史上重要なスポットであった。この地はもともと横浜村の鎮守社であった弁天社の社領地の一部であり、開港以後もフランス・ドイツ・オランダの各公使館もしくは領事館が置かれ、灯台寮、海軍の東海鎮守府、横浜裁判所などの重要な公共施設が置かれた。この地に生糸検査所が置かれたのもむべなるかなである。

しかし、この大建築群もいまや、横浜市文化財に指定された旧帝蚕倉庫事務所とC号倉庫が残るのみ。庁舎は昭和28年に横浜農林総合庁舎となり、平成2年には解体。ほぼ同時期の平成5年に、A号倉庫も解体。もっとも庁舎の外観は、現在の横浜第2合同庁舎の低層部に復原されている。残った3棟の倉庫も、平成20年にC号倉庫を除いて解体、いまはC号倉庫が孤影をさらしているというわけである。

そのC号倉庫の規模は、間口30間、奥行13間2尺、建築面積400坪、軒高45尺、塔屋を含む総高52尺。鉄筋コンクリート造だが、柱形の部分に赤煉瓦が張ってある。いや、張ってあるのではなく、タイルではないホンモノの煉瓦が積んであり、震災後の鉄筋コンクリー

ト造の建物と明治の煉瓦造の建物をつなぐもやいとなっている。倉庫の庫室が三分割されているのを反映して、柱形も両端が最も太く、庫室の間仕切りと相当する部分がやや太く、その他は細く、単調ではないリズムを打っている。柱頭部分には麻をモチーフにしたと思われるレリーフも見られる。内部も興味深く、梁のないフラットスラブを支える円柱の頭はマッシュルームのように広がっており、しかもその円柱の太さも高さもマッシュルームの広がりも各階で違っている。また、荷捌所の底をつくっている鉄筋コンクリート製のキャノピーも見逃せない。

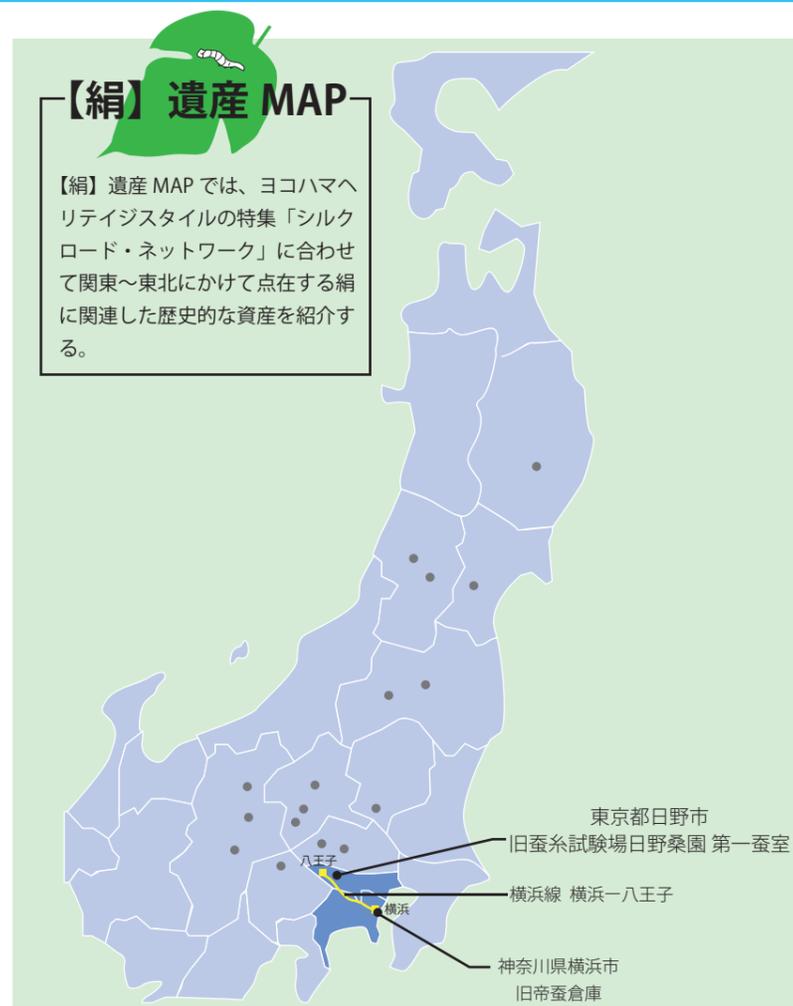
この倉庫の外観は、世界遺産になった木骨煉瓦造の富岡製糸場に似ていなくもない。むしろは壁が煉瓦で柱が木、こちらは壁がコンクリートで柱が煉瓦である。「キーケン」がそのまま残っていれば、日本の近代を支えた絹をめぐる物語の世界遺産がより完全かつリアルになったなあと慨嘆することしきりである。



旧帝蚕倉庫（写真：米山 淳一）

### 【絹】遺産 MAP

【絹】遺産 MAPでは、ヨコハマヘリテイジスタイルの特集「シルクロード・ネットワーク」に合わせて関東～東北にかけて点在する絹に関連した歴史的な資産を紹介する。



東京都日野市  
旧蚕糸試験場日野桑園 第一蚕室  
横浜線 横浜一八王子  
神奈川県横浜市  
旧帝蚕倉庫

### ■ 横浜から「絹」を辿る旅

世界に向けて「絹」を積み出していた横浜の港。各地から良質な生糸が集まり、大正12（1923）年の関東大震災以前は生糸の積み出しを独占した【生糸一港制】とも言われるように、大きく繁栄した。2014年度のヨコハマヘリテイジスタイルでは、シルクロード・ネットワークの設立と併せて、この横浜から、「絹」の元となった養蚕の産地、生糸を紡いでいた製糸場、国内の生糸の品質を高めるのに貢献した蚕糸試験場と「絹」に関連した地域を順番に辿ってみたい。



旧蚕糸試験場日野桑園 第一蚕室 外観（仲田の森遺産発見プロジェクト提供）

### 養蚕・蚕糸業の発展に貢献「旧蚕糸試験場日野桑園と第一蚕室」

上村 耕平（仲田の森遺産発見プロジェクト 会員）

東京都日野市、JR中央線日野駅からほど近い仲田の森蚕糸公園には、【旧農林省蚕糸試験場日野桑園】として、国内の養蚕・蚕糸業の発展に大きく寄与した施設が存在していた。

明治以降、殖産興業政策により日本の養蚕・製糸業は飛躍的に発展したが、粗悪品も多かった。国内の生糸の品質向上のため、明治44（1899）年現在の杉並区高円寺に農林省の「原蚕種製造所」が開設された。その製造所へ桑の供給のために開設されたのが日野桑園である。その後数度の名称変更に伴い昭和3（1928）年になると日野町仲田に分室として栽桑部、育種部が高円寺から移り「蚕糸試験場日野桑園」となる。

昭和7（1932）年から蚕室や庁舎、実験室、寄宿舎など多くの施設が作られたが、昭和56（1981）年に現在の茨城県つくば市へ移転に伴い、大半の施設は解体された。現在、公園内には当時の貴重な遺構である第一蚕室（愛称：桑ハウス）の建物と庁舎の基礎部分が残されている。

桑ハウスの外観や蚕室の作り方には近代養蚕農家の原型となった群馬県伊勢崎市の田島弥平旧や埼玉県本庄市の旧競進社模範蚕室のように気抜き用の越屋根の付いた伝統的な蚕室の形態が見られる。一方で、一階には当時まだ珍しかった鉄筋コンクリート造を採用し、内部の装飾や窓などに洋風のデザインが見られるのが特徴。現在これら蚕糸試験場日野桑園遺構の保存活用に向け、平成21（2009）年に市民や大学が連携し「仲田の森遺産発見プロジェクト」を立ち上げ、活動を行っている。

### ■ 仲田の森遺産発見プロジェクト

URL：<https://www.facebook.com/HinoKuwahouse>



一階内部 2010年度ひのアートフェスティバルで2日限定の休憩所用に清掃（仲田の森遺産発見プロジェクト提供）



二階内部（仲田の森遺産発見プロジェクト提供）